

2025(令和7)年度

学校法人麻生塾 事業報告書

2026年5月31日

# 学校法人麻生塾の建学の精神

## 「仕事を通じて社会に貢献」

### 麻生塾の沿革

麻生塾は1939年（昭和14年）3月31日、採鉱技術者を養成する目的をもって、福岡県飯塚市柏の森の麻生農園跡に誕生した。それは、個人商店として炭鉱事業を営んでいた組織を「株式会社麻生商店」として会社組織に変更した20周年を記念した、教育関係3事業のひとつだった。麻生塾は同社社長・麻生太賀吉氏（1911年～1980年）の、とりわけ深い思い入れをもって創設された。

麻生太賀吉氏は、少年時代に指導を仰いだ九州帝国大学教授の河村幹雄博士（地質学、1886年～1931年）の卓越した人格と学識に強い感化を受け、同博士の教育の理想を具現した学校設立を念願していた。河村博士は地質学者である一方、「教育の他に何者もなし」の信念のもと、教育者としても名高く、今日にも通じる多くの提言を残されている。

時代は太平洋戦争前夜、すでに中国と交戦状態にあり、日々戦時色が濃くなる中、石炭増産が強く叫ばれていた。

麻生塾の目的は、職業を通じて社会に奉仕する中堅産業人を育成することだった。麻生太賀吉氏は、どのような時代になっても人間教育が最も大事であることを、強い信念としていた。創設当時の新聞には「昭和の松陰塾」と報道された。

開校当初、麻生塾の修業年限は3年、これを学習2年、実習1年に分け、各学年とも1学級とした。河村博士の教育方針に徹して少数定員主義をとり、1学年の定員を20名以内とした。入学生は高等小学校卒業生を対象とし、生徒は全て寄宿舎に入る全寮制、学費は全額を支給するほか、社員見習いの資格で月々若干の手当ても支給されていた。

長い戦争が終わり、新生日本の六三三制教育の実施に伴い、1948年（昭和23年）3月、麻生塾は新制高校、麻生塾工業高等学校（採鉱科）として再スタートを切ることになった。学制は変わっても、「仕事を通じて社会に貢献」という建学の精神は、少数定員主義、全寮制、給費制とともに、戦後もそのまま堅持された。そして、その特異な校風は広く教育界に認められるところとなった。

## 2025(令和 7)年度 事業報告書・目次

I. 法人の概要	
1 沿革	… 5
2 設置する学校・学科	… 6
3 学校別入学定員、学生数等の状況	… 8
4 学校別教職員数	… 9
II. 事業の概要	
1 重点施策の推進	… 10
(1) 学生募集活動の強化	
①募集活動	
②入学状況	
(2) 就職・キャリア形成支援	… 10
①就職支援策の実施	
②求人プラットフォーム「Career Map(キャリアマップ)」の活用促進	
③UIターン就職や企業奨学金など価値ある情報の収集及び学内発信	
④ASO卒業生キャリア支援「CONNECT (コネクト)」の運営	
(3) 教育の質向上	… 11
①教員の資質向上	
②教育の質の向上	
③主体的学びの促進	
④授業改善	
(4) グローバル化の推進	… 12
①麻生塾海外留学奨学制度	
②外国人留学生の受け入れ	
③海外留学(長期/短期)の強化	
④インドネシアBINUS 大学 3,4年次生のインターンシップ受け入れ	
⑤教職員のグローバル感覚醸成	
2 学校運営	… 13
(1) 運営組織	
①本部機能	
②各学校	
(2) 社会的責務への対応	
①ガバナンス及びコンプライアンス体制の強化	
②教育環境及び学生支援体制の整備	
③情報管理及び生成AI対応	
④リスクマネジメント体制の継続的運用	
3 教育活動	… 15
(1) 学科の新設、廃止	
①麻生情報ビジネス専門学校	
②専門学校麻生工科自動車大学校	
(2) キャリア教育(グローバル シティズン・ベーシック教育:GCB 教育)	
①GCB 教育の概要	

②教育改善	
(3) 研究関連活動	
4 学生支援	… 16
(1) フレックスクラス・学生相談室	
①実施内容	
(2) 学修支援のための奨学金制度	
5 社会貢献・地域貢献	… 17
(1) 活動状況	
①次世代リーダー養成塾への担任派遣	
② ボランティア活動	
6 働きがい創出	… 17
(1) 多様な働き方への対応	

# I. 法人の概要

## 1. 沿革

1939年(昭和14年)3月	麻生太賀吉、麻生塾を創立
1947年(昭和22年)12月	財団法人麻生塾を設立
1948年(昭和23年)3月	学制改革により麻生塾工業高等学校 開校
1951年(昭和26年)3月	学校法人麻生塾に組織変更
1980年(昭和55年)4月	飯塚病院附属高等看護学院を学校法人麻生塾麻生飯塚看護専門学校に改称
1986年(昭和61年)4月	麻生電子ビジネス専門学校 開校(1号館)
1989年(平成元年)4月	麻生飯塚看護専門学校を麻生医療福祉専門学校に改称
1991年(平成3年)4月	専修学校麻生外語観光カレッジ 開校(3号館)
1996年(平成8年)4月	麻生法律専門学校、麻生医療福祉専門学校北九州校、 専修学校麻生テクニカルデザインカレッジ、戸畑に開校
1997年(平成9年)4月	麻生医療福祉専門学校福岡校 開校(4号館)
1998年(平成10年)4月	麻生工科専門学校 開校
2001年(平成13年)4月	麻生リハビリテーション専門学校 開校 専修学校麻生テクニカルデザインカレッジを麻生電子ビジネス専門学校北九州校に改称
2002年(平成14年)4月	麻生法律専門学校を麻生公務員専門学校に改称 専修学校麻生ビューティーカレッジ 開校
2003年(平成15年)4月	麻生電子ビジネス専門学校を福岡校、北九州校 とともに麻生情報ビジネス専門学校に改称
2004年(平成16年)4月	麻生塾 北九州キャンパス小倉校舎 竣工 麻生公務員専門学校を麻生公務員専門学校北九州校に改称 麻生情報ビジネス専門学校北九州校及び麻生公務員専門学校北九州校 移転
2005年(平成17年)4月	麻生公務員専門学校福岡校 開校 麻生工科専門学校を麻生工科デザイン専門学校に改称
2006年(平成18年)4月	専修学校麻生外語観光カレッジを専門学校麻生外語観光カレッジに改称
2008年(平成20年)4月	専門学校麻生工科自動車大学校 開校
2008年(平成20年)8月	麻生外語観光カレッジの新実習棟「ASO SKY CUBE」 竣工(8号館)
2009年(平成21年)4月	専門学校麻生外語観光カレッジを麻生外語観光&製菓専門学校に改称 麻生医療福祉専門学校を麻生看護医療専門学校に改称 麻生工科デザイン専門学校を麻生建築&デザイン専門学校に改称 麻生医療福祉専門学校北九州校を専門学校麻生医療福祉&観光カレッジに改称
2010年(平成22年)3月	麻生公務員専門学校福岡校 新校舎竣工(9号館)
2012年(平成24年)4月	麻生リハビリテーション専門学校を専門学校麻生リハビリテーション大学校に改称 麻生看護医療福祉専門学校を専門学校麻生看護大学校に改称
2012年(平成24年)9月	麻生塾 北九州キャンパス西小倉校舎 竣工、麻生公務員専門学校北九州校 移転
2015年(平成27年)3月	福岡キャンパス10号館 竣工
2015年(平成27年)4月	株式会社麻生キャリアサポート 設立
2016年(平成28年)9月	福岡キャンパス11号館(旧博多織会館) 取得
2017年(平成29年)7月	株式会社プロジェクトスタジオQ 設立
2018年(平成30年)4月	ASOポップカルチャー専門学校 開校
2019年(平成31年)4月	ASO高等部 設立
2020年(令和2年)4月	専修学校麻生ビューティーカレッジを麻生美容専門学校に改称、福岡キャンパスに移転
2022年(令和4年)3月	麻生医療福祉&観光カレッジ 閉校 福岡キャンパス12号館 取得
2023年(令和5年)4月	麻生外語観光&製菓専門学校を麻生外語観光&プライダル専門学校に改称
2024年(令和6年)4月	麻生医療福祉専門学校福岡校を麻生医療福祉&保育専門学校に改称

## 2. 設置する学校・学科（2025年5月1日 現在）

学校名(所在地)	学科名	備考
麻生情報ビジネス専門学校 (福岡市博多区博多駅南 2-12-32)	情報工学科 情報システム専攻科 情報システム科 ビジネスエキスパート科 情報ビジネス科 IT 経営科 経理科 キャリアデザイン科 国際ビジネス科 国際 IT エンジニア科	留学生専用学科 留学生専用学科
麻生外語観光&ブライダル専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-14-17) (福岡市博多区博多駅南 1-13-16)	エアライン科 ブライダル・ウェディング科 ホテル・リゾート科 グローバルコミュニケーション科 国際おもてなし科 日本語科(1.5年課程) 日本語科(2年課程)	留学生専用学科
麻生医療福祉&保育専門学校 (福岡市博多区博多駅南 2-12-24) (福岡市博多区博多駅南 2-12-29)	医療秘書・事務科 診療情報管理士専攻科 AI&診療情報管理士科 こども未来学科 こども保育科 社会福祉科 福祉心理学科 介護福祉科 国際介護福祉科 社会福祉士通信課程 精神保健福祉士通信課程	留学生専用学科
麻生建築&デザイン専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-11-13) (福岡市博多区博多駅南 1-14-12)	建築工学科 建築士専攻科 建築学科 建築CAD科 インテリアデザイン科 建築学科<夜間> クリエイティブデザイン学科	
麻生公務員専門学校 福岡校 (福岡市博多区博多駅南 1-14-14)	公務員専攻科 公務員総合科 公務員中上級専攻科 公務員中上級教養科	
ASO ポップカルチャー専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-13-14)	ゲーム専攻科 CG 専攻科 ゲーム・CG 専攻科 ゲーム学科 CG 学科 アニメ学科	

	マンガ学科 イラスト学科 コミックイラスト科 コミックイラスト研究科 ポップカルチャー総合学科	高等課程
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校 (北九州市小倉北区浅野 2-11-33)	システムエンジニア科 コンピュータシステム科 オフィスビジネス科 ゲームクリエイタ科 CGデザイン科	
麻生公務員専門学校 北九州校 (北九州市小倉北区室町 3-2-62)	公務員専攻科 公務員総合科	
麻生看護大学校 (飯塚市芳雄町 3-83)	看護科 看護科通信課程	
麻生リハビリテーション大学校 (福岡市博多区東比恵 3-2-1)	理学療法学科<昼間部> 理学療法学科<夜間部> 作業療法学科<昼間部> 作業療法学科<夜間部> 言語聴覚学科<昼間部> 言語聴覚学科<昼夜間部>	
麻生美容専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-13-16)	美容科 美容科通信教育課程	
麻生工科自動車大学校 (福岡市博多区東比恵 2-8-28)	1級自動車整備科 2級自動車整備科 自動車工学・機械設計科 国際自動車整備科	留学生専用学科
ASO 高等部 (福岡市博多区博多駅南 2-12-24)	情報システムコース ゲームクリエイターコース CG・イラストコース	



### 3. 学校別入学定員、学生数等の状況（2025年5月1日時点）

学 校 名	入学定員	収容定員	在学生数
麻生情報ビジネス専門学校	420	940	1,088
麻生外語観光&ブライダル専門学校	480	890	625
麻生医療福祉&保育専門学校 福岡校	260	570	327
麻生建築&デザイン専門学校	470	1,020	689
麻生公務員専門学校 福岡校	595	855	484
ASO ポップカルチャー専門学校	280	765	669
麻生美容専門学校	114	228	202
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校	160	380	278
麻生公務員専門学校 北九州校	220	300	149
専門学校麻生リハビリテーション大学校	260	800	478
専門学校麻生工科自動車大学校	180	490	357
専門学校麻生看護大学校	60	180	184

#### 4. 学校別教職員（2025年5月1日時点）

学 校 名	教員 (本務)	教員 (兼務)	職員 (本務)
麻生情報ビジネス専門学校	47	35	37
麻生外語観光&ブライダル専門学校	29	74	5
麻生医療福祉&保育専門学校	26	97	2
麻生建築&デザイン専門学校	27	55	4
麻生公務員専門学校 福岡校	22	11	3
ASO ポップカルチャー専門学校	24	16	4
麻生美容専門学校	10	37	2
麻生情報ビジネス専門学校北九州校	13	18	5
麻生公務員専門学校 北九州校	8	4	4
専門学校麻生リハビリテーション大学校	38	81	9
専門学校麻生工科自動車大学校	20	21	6
専門学校麻生看護大学校	11	120	14

## II. 事業の概要

2025年度に行われた学校法人及び設置学校における事業の概要は、次のとおりである。

### 1. 重点施策の推進

法人及び設置学校の安定した経営基盤確立のため、下記事業活動における各施策の推進に努めた。重点施策の主な実績は以下の通りである。

#### (1) 学生募集活動の強化

##### ① 募集活動

##### (ア) オープンキャンパスへの動員強化

2025年度は、前年度に引き続き、高校生と直接接触する進路ガイダンス活動に注力した。加えて、WEB・SNSなどのデジタル領域における集客活動を強化した結果、高校3年生の動員数は過去5年間で最多となり、留學生については過去最多の動員実績を達成した。また、近年の進路活動の早期化を踏まえ、高校2年生への動員強化にも取り組んだ結果、こちらについても過去最多の動員実績となった。

##### (イ) オープンキャンパス参加者とのリレーション強化

オープンキャンパスへのリピート参加の促進や、SNSを活用した参加後の個別フォロー等を実施し、参加者とのリレーション強化に取り組んだ。その結果、オープンキャンパス参加者から出願に至る歩留まり率が向上し、出願数の増加を実現することができた。

##### (ウ) 麻生専門学校グループの付加価値創出

募集対象者およびその保護者からの選好性を高めるため、昨年度に引き続き付加価値創出に取り組んだ。特に2025年度は麻生専門学校グループ独自の基金である「ASOミライサポート」を立ち上げた。これにより、社会と連携して学生を育成し、学生が社会からの支援を受けて成長するとともに、その成果を社会へ還元し、貢献していく循環型の基盤を構築した。

##### ② 入学状況

参加者とのリレーション強化による出願歩留まり率の向上や、募集対象者のニーズを捉えた総合型選抜の促進等により、出願数は前年から大幅に増加した。それに伴い、入学者数についても前年を大きく上回る結果となり、12校中10校において前年を上回る入学者数を確保することができた。

#### (2) 就職・キャリア形成支援

学生に対する就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観醸成及び職業に関する知識・技能を修得して主体的に進路を選択できる能力を育成し、社会で活躍し続ける自立した人材を輩出することを目的としている。

##### ① 就職支援策の実施

学生の就職活動支援においては、ファーストキャリアを重要視し、業界企業と連携、学生及び保護者のニーズを踏まえた上で進路支援を行っている。依然、早期化が進む就職環境において、今の就職環境に合わせた就職支援施策を企画・実施

している。具体的には各分野での「就職・進路ガイダンス」、「個別面接対策指導」、「学内合同企業説明会」等を実施し、学生のより効果的・効率的な就職活動をバックアップしている。

- ② 求人プラットフォーム「Career Map(キャリアマップ)」の活用促進  
学生のタイムリーな求人票の検索・閲覧や求職者情報入力による求職票の代替、求人データの入力、管理のシステム化により、学生のキャリア選択の幅の拡大のみならず、担当者の業務効率とエネルギーシフトが図られており、就職活動およびサポートのDX化に寄与している。
- ③ UI ターン就職や企業奨学金など価値ある情報の収集及び学内発信  
九州各県における企業の人材獲得に関する課題解決に貢献すべく、UI ターン就職や企業奨学金など有益な情報について学内配信の仕組みを構築した。学校別に各県出身者リストを作成し、合同説明会などのイベント告知チラシを該当学生に直接配布するほか、就職年次の全学生へのメール配信、学生ポータルサイト内の就職ページへの情報掲載、クラス内でのチラシ掲示、就職部会における教務への情報共有など、複数の手段による情報伝達を行っている。
- ④ ASO 卒業生キャリア支援「CONNECT (コネクト)」の運営  
卒業生の再就職支援や仕事の悩み相談や不安解消など、専門のキャリアカウンセラーによる個別サポート体制を整えている。丁寧なカウンセリングを行ない、悩みの解決や自己分析、志望動機の深堀など、社会で活躍し続けるためのキャリア構築のサポートを行っている。

### (3) 教育の質向上

#### ① 教員の資質向上

##### (ア)授業力向上

教員の資質向上に向けて、授業アンケートに加え、校長代行による各教員への授業評価およびフィードバックを実施し、授業改善を推進している。また、取り組み状況については、自己点検・評価後の審査を通じて確認を行い、職業教育マネジメントサイクルの活性化を図っている。

##### (イ)新任教員研修

新任教員(1・2年目)を対象にコーチングスキルにもとづく学生対応力、クラス運営力向上をはじめ、AI活用、リスクマネジメント等の研修を計画・実施している。特に1年目の教員に対しては、チューターによる日々のサポートに加え、年間を通してのOff-JT研修を実施することで、個々の課題を確認し改善につなげる取り組みを行っている。

##### (ウ)学内研修

本校教員に対し、授業力・指導力向上を目的とした各種研修を実施し、受講を促進している。学生・保護者対応に必要なアサーティブコミュニケーションに関する研修を実施したほか、多様化する学生への対応力向上を目的として、合理的配慮に関する理解を深める研修を行った。

また、教育現場におけるハラスメント対応に関する研修を通じて、アカデミックハラスメントやカスタマーハラスメントへの適切な対応について

学び、教職員の指導力向上につなげている。

② 教育の質の向上

企業、社会に貢献するべく、各校にて質の高い授業を展開し、優秀な人材を送り出す教育活動を続けている。カリキュラムの編成にあたっては、関係者からのニーズや意見を踏まえるようにしている。

③ 主体的学びの促進

麻生専門学校グループ独自の LMS (learning management system/学習教材の配信や成績などを統合して管理するシステム) や生成 AI を用いた新しい授業スタイルの構築を進め、学生の主体的学びの促進に取り組んでいる。

④ 授業改善

学レポ (LMS を利用した授業後のアンケート) を導入し、分かった点や分からなかった点、授業のおすすめ度を把握して授業改善に役立てている。

また、半期毎に学生に対して教員の授業内容に関するアンケートを実施すると共に、教員自身が自らの授業を振り返った結果と照らし合わせることで、今後の授業運営改善につなげている。

#### (4) グローバル化の推進

円安や物価高騰等の影響もあり、留学希望者は少ない傾向ではあるが、長期留学2名、短期留学3名、また麻生塾が費用を支援する麻生塾海外留学奨学制度では5名の学生が海外留学を果たした。また、一部の学校では、学生が無料参加できる英語講座等を実施した。

① 麻生塾海外留学奨学制度

在校生の英語に対する興味喚起と異文化理解促進を目的に、麻生塾海外留学奨学生制度を2015年より開始。例年フィリピン・セブ島での2週間の語学研修を実施していたが、2022年度から派遣国を増やし、カナダ・オーストラリア1週間またはフィリピン・セブ島2週間のいずれかを選択できるようにした。また、2025年度には、新たにインドネシアでのボランティアプログラムを設け、1名をカナダ、2名をオーストラリア、そして2名をインドネシアに派遣した。帰国後には「成果報告会」を実施し、在校生や教職員へ自身の成長について発表を行った。

② 外国人留学生の受け入れ

麻生専門学校グループでは、多文化共生の理念のもと、外国人留学生の受け入れを積極的に推進している。日本語科においては、中国、台湾、ミャンマー、韓国、フランス、ベルギーなど世界12か国・地域から留学生を受け入れ、多様な文化的背景を持つ学生が学んでいる。

2025年度の日本語科入学者数は172名となり、日本語科常勤教員11名による指導体制のもと、日本語能力の向上と専門課程への進学を見据えた教育を実施した。また、学習指導に加え、生活指導や進路指導を充実させることで、留学生一人ひとりの成長を支援している。

進学支援の成果として、日本語科から麻生専門学校グループ専門課程への内部進学者数は60名、内部進学率は60%となり、多くの留学生が本学グループ内で継

続して専門知識・技術の習得に取り組んでいる。

さらに、外国人スタッフによる多言語対応をはじめ、生活相談、就職支援を継続的に実施し、留学生が安心して学業に専念できる環境整備に努めた。

今後も、教育の質向上と支援体制のさらなる充実を図り、世界各国・地域から選ばれる教育機関を目指していく。

### ③ 海外留学（長期／短期）の強化

麻生塾では「グローバル社会に対応できる人材育成」に向け、全在校生を対象に海外留学プログラムを提供している。プログラムは夏季・春季の長期休みを利用して参加する短期留学と、1年間休学して参加する長期留学を実施している。

留学に際しては、留学カウンセリング、留学説明会・報告会などの支援に加え、留学先でのリスク回避を目的とした出発前危機管理セミナー、英語学習や異文化理解に関する研修等、学生のみならず保護者の方々にも安心してもらうための支援を行っている。海外への送り出し先は、8カ国、18教育機関となっている。

また、カリキュラムに海外研修が組み込まれている学校においては、フィリピン、ニュージーランド、韓国での研修を実施している。

### ④ インドネシア BINUS 大学 3,4年次生のインターンシップ受け入れ

将来的な麻生塾及び麻生グループでの高度外国人人材採用を視野に、2020年より毎年約1年間、BINUS大学の3,4年次生3~4名を麻生塾にて対面インターンシップ生として受け入れており、2025年度も4名を受け入れた。日本語の語学研修を行いつつ、各人のBINUS大学での専攻分野に対応する部署で業務を経験した。尚、このインターンシップはBINUS大学の単位として認められている。インターンシップ生の日本での就業体験はもとより、麻生専門学校グループのグローバル対応能力向上に向けての取り組みの1つとなっている。例えば、麻生専門学校グループの学生へ英語講座を実施するなど、グローバル推進に貢献している。

なお、2025年度のインターン生4名の内、2名がインターン中に日本国内企業の内定を獲得している。

### ⑤ 教職員のグローバル感覚醸成

教職員のグローバル感覚の醸成を目的に、教職員自身がグローバルな視点を養えるよう取り組みを実施している。2025年度は、グループ会社の社員を交えたBINUS大学からのインターンシップ生との国際交流イベントを5件実施するなど、教職員が気軽に英語を使用し、外国の文化・価値観に触れられる機会を提供した。従来からある教職員向け無料英語講座の受講斡旋も例年どおり行い、2025年度は過去8年間で最多の70名の教職員が講座を受講した。

## 2. 学校運営

### (1) 運営組織

組織体制としては12校の専門学校に加え、各校の運営をサポートする本部機能を有している。

#### ① 本部機能

法人本部・GC推進本部・経営企画本部という3本部体制により、各学校とスピード感を持った連携を図ることを目指した。また、機能別に役割を分けること

により、各部門の役割と部門の目指すべき方向性を明確にした。

② 各学校

学校運営全般業務

(2) 社会的責務への対応

高校を取り巻く環境は、大学志向の高まりや高卒採用の増加等により大きく変化しており、大学や専門学校など高等教育機関間の競争は一層激しさを増している。また、教育現場のデジタル化や生成 AI の浸透をはじめとする急速なテクノロジーの進展により、専門学校教育には従来以上に「実践的人材育成機関」としての社会的説明責任が求められている。さらに、外国人留学生の増加、学生の多様化、コンプライアンス意識の高まり等を背景として、学校運営においては、教育機関としての公共性と安全性を両立するための体制整備が不可欠となっている。

麻生塾では、これらの社会的要請を踏まえ、教育環境の安定的な提供、法令遵守の徹底及びリスク対応体制の強化を通じて、学生・保護者・地域社会から信頼される学校運営体制の構築を推進した。

① ガバナンス及びコンプライアンス体制の強化

2025年4月1日に施行された改正私立学校法への対応として、改定後寄附行為に基づく新たな運営体制の定着を図った。理事会、監事及び評議員会等の各機関の役割整理を踏まえ、適正な意思決定及び監督機能の実効性向上に向けて、法人内での理解促進と周知徹底に努めた。

また、契約管理、個人情報保護、反社会的勢力排除等の法務・コンプライアンス分野について、実務運用上の整理を進めるとともに、各部門に対する周知・啓発を実施した。

② 教育環境及び学生支援体制の整備

学生が安心して充実した学習及び学校生活を送ることができるよう、各種制度・規程等の運用改善を進めた。その一環として設立したASOミライサポート制度は、企業、地域との連携により学生への新たな支援体制を構築するものであり、今後さらなる展開を推進する。また、インターンシップ参加ルールの見直し、外国人留学生支援等に関する対応体制の整備を行い、学生が主体的かつ意欲的に学習へ取り組むことができる環境整備を進めた。

さらに、留学生受入れ体制の整備の一環として、日本語教育機関認定制度への対応準備、自己点検・評価体制の構築等を推進した。

③ 情報管理及び生成 AI 対応

教育現場における ICT 活用の拡大を踏まえ、学習管理システム (LMS) 及び学生ポータルサイト運用に関連する著作権及び個人情報保護上の課題整理を進めた。また、生成 AI 利用については、教育活動及び事務運営の双方において活用可能性が拡大している一方で、情報漏洩、著作権侵害、学修評価への影響等の課題も存在することから、ガイドライン整備及び適切な利用ルールの検討を継続した。

④ リスクマネジメント体制の継続的運用

リスクマネジメント委員会を毎月開催し、事故、不祥事、情報漏洩等の事例共有を行うとともに、各部門におけるリスクマネジメント意識の向上と主体的対応の

推進に取り組んだ。特に、学生対応、SNS 利用、個人情報管理、緊急時対応等に関する知識共有・啓発を実施し、教職員のコンプライアンス意識向上を図った。

### 3. 教育活動

#### (1) 学科の新設、廃止

##### ① 麻生情報ビジネス専門学校

幅広い分野における職種について理解した上で、自己の適性を踏まえた進路選択を実現することを目的とし、新たにキャリアデザイン科（1年課程、2年課程）を設置した。

##### ② 専門学校麻生工科自動車大学校

自動車に特化した設計開発に携わる人材の育成を目的とした自動車工学・機械設計科（4年課程）を設置した。

#### (2) キャリア教育（GCB 教育）

##### ① GCB 教育の概要

麻生専門学校グループの教育理念に沿った人材育成の一貫として位置付けられている独自のキャリア教育プログラムである。実社会にて、専門スキルを十分に発揮するため必要とされる社会人スキルと、その土台となる人間力の向上を目的とし、3段階の教育内容にて構成されている。

教育目標は、麻生グループ 126 社（2025 年 4 月 1 日現在）が掲げる人材「グローバルシティズン」（定義：世界が自立しながらも互いに協力し合うことで成り立っていることを認識し、恵まれた人生を過ごしていることに感謝し、地域・国家の発展に貢献する人）を育成像とし、GCB I・II プログラムについては全学生が履修する。

##### (ア) GCB I

社会で生き抜く基盤を「感謝する心」として据え、自らの責任において行動できる積極性や、良好な人間関係を構築するコミュニケーションなどを中心に「社会人基礎力」の理解と向上について学ぶ

##### (イ) GCB II

強い信念と共に公・社会を視野に入れ、具体的な行動目標（言語化・数値化）をもって努力を継続することで実現する「志」について考える

##### (ウ) GCB III（選抜方式）

グローバル社会における活躍人材や多様性を生かしたリーダーシップ、また組織力を高めるフォロワーシップなどを学内外の講師陣より学ぶ

##### ② 教育改善

本校独自のキャリア教育プログラムとして 2010 年の導入以来、GCB I・II においては、「人間力＝マナー（協調性）・人間性（感謝心）」を軸とし、「社会人基礎力」の強化を図る内容を付加することで、プログラムのブラッシュアップを行ってきた。知識習得型の科目でないことから、学生の行動変容を促す担当教員の指導力に開きが生じてしまう点が課題であったが、2023 年度に標準プログラム対応のオンデマンドコンテンツ（GCB I・II）を完成させ、授業力の標準化を図ることができ

た。さらに学習効果を高めるため、AI を活用した授業方法の開発に努めた。GCBⅢは、履修を希望する学生を対象として正規出校日外に開講されるプログラムであり、オンラインで実施している。2025 年度は、情報リテラシーやサプライチェーンなど、理解しておくべき喫緊の社会課題や、ポータブルスキルとしてのロジカルシンキング、フォロワーシップ、また異文化理解を「日本人が海外で働く」、「外国人が日本で働く」という両面で学ぶ機会の創出を行った。

### (3) 研究関連活動

文部科学省等の委託事業への参加状況は下記のとおりである。

- ① 生成 AI の実務応用を軸とする次世代型 IT 人材を育成する教育モデルの開発事業
- ② 先端 IT 人材育成学科新設プログラム開発事業
- ③ 地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業
- ④ クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）
- ⑤ 自動車業界における“業務に直結する”基礎知識・先端技術の習得プログラム開発
- ⑥ 自動車整備分野の外国人留学生（受入れ/在学/就職/定着）のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業 等

## 4. 学生支援

### (1) フレックスクラス・学生相談室

フレックスクラスは、学生の多様化にともない、諸々の課題を抱え、通常クラスでの修学が困難な学生を対象に「学びの第二環境」という位置づけにて、福岡キャンパス内に 2022 年度より設置された。オンライン授業等を活用しながら単位履修に努め、同時に社会性の育成、意識向上に向けての指導を行うことにより、卒業や通常クラスへの復帰を目指している。2025 年度は 41 名の学生が利用し、卒業および本クラスへの復帰率は 83%だった。

また、安心して学生生活を送ることができるよう、学生相談室を設置し、精神面での課題を抱える学生には臨床心理士が継続的な支援を行いながら、必要に応じて医療機関へ繋ぐことや、日常における修学や就職活動などの不安、悩みを持つ学生たちには、担当職員によるサポートを推進している。

運営にあたっては、守秘義務を順守するとともに、個人情報保護管理規程に則って相談内容を適切に管理している。

#### ① 実施内容

- (ア) 臨床心理士によるカウンセリング
- (イ) 担当者によるインテーク面談

### (2) 学修支援のための奨学制度

将来有望な人材として期待される学生が修学に専念できる教育環境を整えるため、多様な能力を評価する奨学制度を実施している。

- ① 特待生制度-特待 A（学力特待生制度）
- ② 特待生制度-特待 B（総合力特待生制度）

- ③ 特待生制度-特待 C (資格等特待生制度)
- ④ 麻生塾海外留学奨学制度

## 5. 社会貢献・地域貢献

### (1) 活動状況

#### ① 次世代リーダー養成塾への担任派遣

日本の次世代リーダー養成塾とは、経済界や地方自治体を中心となり、全国の志の高い高校生を対象に日本以外にも世界を舞台に挑戦する人材の育成を目指したサマースクールである。次世代リーダー養成塾では、従来の学校教育では実現できない、日本や世界を代表する様々な分野で活躍する一流の講師を招き、学問の楽しさ、人としての生き方がどうあるべきかを教える。

クラス担任は企業の中堅社員が務めており、麻生専門学校グループからは毎年講師を派遣するなどして活動を支援している。

#### ② ボランティア活動

##### (ア) 地域ボランティア活動

国家・地域社会に貢献する観点から、学生的人間的成長を促すため、学生の社会貢献・地域貢献活動（ボランティア活動）を実施している。

##### (イ) 子ども食堂

地域の小学校、公民館と連携し学生が企画・計画・運営を行うこども食堂を学内で月1回のペースで実施している。食事の提供や、こども達の宿題などを支援する活動や健康増進のためのレクレーションなども実施している。

内容：地域の子どもたちに食事の提供 / 学習支援 / レクリエーション  
連携団体等：小学校、公民館、社会福祉協議会、一般企業、NPO（特定非営利活動法人フードバンク福岡）

## 6. 働きがい創出

### (1) 多様な働き方への対応

教職員1人ひとりがやりがいや充実感を持って働き、それぞれの責任を果たしながら、家庭生活や地域社会との調和を図り、多様な生き方を選択・実現できる職場環境の整備に向けて、下記①～⑤の取り組みを実施した。また、⑥の実績を残した。

- ① 適切な労働時間の管理や年次有給休暇取得の定着（法定年休5日含む）
- ② ライフステージに応じた働き方に対する情報発信（育児休業・休暇、子の看護休暇、介護休業・休暇、時差出勤など各種制度）
- ③ 養育両立支援休暇の設立
- ④ 短時間勤務制度の対象年齢延長
- ⑤ キャリアプランやライフステージに合わせた働き方を実現するための幅広い雇用形態の整備と定着
- ⑥ 女性教職員の育児休業取得率 100%達成及び男性教職員の育児休業取得 2件

以上